



## 各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

# 第 57 回ギャラクシー賞・大賞、優秀賞決定！

## テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門「大賞」「優秀賞」「選奨」決定 大賞選評、委員長講評、受賞者コメント（伊藤沙莉、爆笑問題、樋泉実）

平素は放送批評懇談会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

テレビ、ラジオ、CMの優秀作品に贈る賞として57年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。  
第57回のテレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の各賞が最終決定しました。

### テレビ部門大賞

チャンネル4「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」（テレビ信州）

### ラジオ部門大賞

J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION～STORIES OF OKINAWA～（J-WAVE）

### CM部門大賞

カネボウ/KANEBO シリーズ「I HOPE.」（カネボウ化粧品 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER）

### 報道活動部門大賞

中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～（中海テレビ放送）

「大賞」「優秀賞」「選奨」などすべての受賞作品は次ページをご参照ください。

大賞選評、委員長講評、受賞者コメント（個人賞、DJパーソナリティ賞、志賀信夫賞）もご参照ください。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行っています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

<b>志賀信夫賞</b>
<b>樋泉 実</b>
マイベストTV賞 第14回グランプリ
<b>ドラマ24「きのう何食べた？」</b> テレビ東京/松竹/「きのう何食べた？」製作委員会
<b>テレビ部門</b>
<b>大賞</b>
チャンネル4「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」 テレビ信州
<b>優秀賞</b>
NHKスペシャル「日本人と天皇」 日本放送協会
ウルトラハイパーハードボイルドグルメリポート テレビ東京
<b>俺の話は長い</b> 日本テレビ放送網/オフィスクレッシェンド
<b>選奨</b>
NNNDキュメント'19「防衛大学校の闇 連鎖した暴力…なぜ」 日本テレビ放送網
福井テレビ開局50周年記念番組「聖職のゆくえ～働き方改革元年～」 福井テレビジョン放送
ノーナレ「画面の向こうから」 日本放送協会
ドラマイズム「スカム」 毎日放送/avex pictures/「スカム」製作委員会
BS1スペシャル「バレエの王子になる！“世界最高峰”ロシア・バレエ学校の青春」 日本放送協会/日本電波ニュース社
モジモジWORLD～ウソのようなフォントの話～ オプテージ (eo光テレビ)
大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」 日本放送協会
NNNDキュメント'20「19人を殺した君と重い障がいのある私の対話」 北日本放送
BSNスペシャル「芸術の価値 舞踊家金森穰16年の闘い」 新潟放送
映像'20「『復興五輪』の陰で東北は…」 毎日放送
<b>フロンティア賞</b>
<b>神田伯山ティービー</b> 冬夏
<b>特別賞</b>
「ゲゲゲの鬼太郎」テレビアニメ化50周年記念・第6期 フジテレビジョン/読売広告社/東映アニメーション
<b>個人賞</b>
<b>伊藤沙莉</b> ETV特集「反骨の考古学者 ROKUJI」(NHK)、ドラマ10「これは経費で落ちません！」(NHK)、「ベンジョン・恋は桃色」(フジテレビ)、「映像研には手を出すな！」(NHK)、「全裸監督」(Netflix) その他の演技
<b>報道活動部門</b>
<b>大賞</b>
中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～ 中海テレビ放送
<b>優秀賞</b>
キャンペーン報道“用水路事故をなくす” 日本放送協会
ヤジと民主主義～警察が排除するもの～ 北海道放送
<b>選奨</b>
やまゆり園事件に関わる、公私にわたる表現活動 RKB毎日放送
揺さぶられっ子症候群 (SBS) の検証報道 関西テレビ放送
検証ふるさと納税～手数料10%の衝撃～ 東海テレビ放送

<b>ラジオ部門</b>
<b>大賞</b>
J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION ～STORIES OF OKINAWA～ J-WAVE
<b>優秀賞</b>
佐藤旬子と板東道生のとなりのラジオ 四国放送
あなたと見た風景～目の見えない初江さんの春夏秋冬～ 青森放送
加来耕三が柳川で大河ドラマをつくってみた 超拡大！放送尺22倍SP RKB毎日放送
<b>選奨</b>
午後ほとことん よろず屋ラジオ「思わず人に話したくなる 元号スペシャル」 福井放送
FMシアター「ドライビング・レコード」 日本放送協会
オードリーのオールナイトニッポン～むつみ荘から最後の生放送～ ニッポン放送
伊藤史隆のラジオノオト 朝日放送ラジオ
<b>DJパーソナリティ賞</b>
<b>爆笑問題</b> 「JUNK爆笑問題カーボーイ」「爆笑問題の日曜サンデー」(TBSラジオ) パーソナリティとして
<b>CM部門</b>
<b>大賞</b>
カネボウ化粧品 カネボウ/KANEBO シリーズ「I HOPE.」 カネボウ化粧品/電通/ティー・ワイ・オー MONSTER
<b>優秀賞</b>
東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「見えない障害と生きる。」 東海テレビ放送/電通/東北新社
日本コカ・コーラ コカ・コーラ 自動販売機 シリーズ「笑顔を、ここから。」 日本コカ・コーラ/電通/ティー・ワイ・オー MONSTER
三井住友カード 企業 シリーズ「Thinking Man篇」2話・3話 三井住友カード/電通/TUGBOAT/東北新社
<b>選奨</b>
<b>テレビCM</b>
Indeed Ireland Operations Indeed シリーズ「仕事さがしにサーチあれ。」 Indeed Ireland Operations/電通/電通クリエイティブX
サントリーホールディングス BOSS シリーズ 宇宙人ジョーンズ「平成特別篇」「老舗篇」「漁港篇」 サントリーホールディングス/連/ワンスカイ/電通/ギークピクチャーズ
ジャパンパーク&リゾート 姫路セントラルパーク シリーズ「春夏秋冬」 ジャパンパーク&リゾート/博報堂/RAY
鳥羽水族館 企業「プロフェッショナルがいる」 鳥羽水族館/東海テレビ放送
トヨタ自動車 トヨタタイムズ「豊田社長 車中取材」 トヨタ自動車/電通/AOI Pro.
本田技研工業 FIT シリーズ「お披露目篇」「宣言篇」「登場篇」 本田技研工業/電通/ピラミッドフィルム/クリエイティブ・パワー・ユニット
三菱地所 企業「丸の内のラグビー熱」 三菱地所/電通/ビクト
<b>ラジオCM</b>
エバラ食品工業 黄金の味「憧れ篇」 エバラ食品工業/横浜エージェンシー/朝日放送ラジオ/ビッグフェイス
パイロットコーポレーション なまえペン「ひどい名前篇」 パイロットコーポレーション/電通/エムアイティギャザリング

※CM部門の社名は広告主/広告会社/制作会社の順



## 大賞選評、委員長講評、受賞者コメント

### ◆大賞選評

#### テレビ部門大賞

チャンネル4「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」(テレビ信州)

<選評>

閉鎖の危機に直面している野辺山宇宙電波観測所の1年に密着。国からの交付金削減で日本の基礎研究が衰退していく現実を見事に浮き彫りにしました。経済的利益を優先する国の政策に警鐘を鳴らした秀作です。

#### ラジオ部門大賞

J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION～STORIES OF OKINAWA～(J-WAVE)

<選評>

親子の対話と音楽というシンプルな手法で、沖縄の戦後史、放送史を描く試みを成功させました。川平朝清さんの貴重な話を記録し、現在の沖縄をめぐる問題にも目を向けさせてくれた制作者たちに敬意を表します。

#### CM部門大賞

カネボウ/KANEBO シリーズ「I HOPE.」(カネボウ化粧品 電通 ティー・ワイ・オー MONSTER)

<選評>

モノクロからカラーへと変化するシンプルでシャープな映像は、圧倒的に目を引きまします。モデル、ダンサーが女性性を超えた内面からの美しさを訴えて、時代を映し出しました。『唇よ、熱く君を語れ』のリメイクも秀逸です。

#### 報道活動部門大賞

中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～(中海テレビ放送)

<選評>

テレビ番組「中海物語」を2001年から継続し、中海について多角的に報道する一方で、「中海再生プロジェクト」を主導。湖岸清掃活動などで「泳げる中海」を実現しました。地域の環境改善に貢献した活動を高く評価します。

\*各部門「大賞」「優秀賞」「選奨」の詳しい選評は、「GALAC」8月号(7月6日発売)に掲載します。



#### ◆委員長講評

##### テレビ部門委員長・出田幸彦

ローカル局の作品に力作が多かったことが特に印象に残りました。「自分たちの身近で起きている出来事」に着目し、「行政の歪み」や「制度の矛盾」という今の日本全体に起きている普遍的な問題を鋭くあぶり出しています。大賞に選ばれたテレビ信州チャンネル 4「カネのない宇宙人 閉鎖危機に揺れる野辺山観測所」もまさにそうした制作者の熱いまなざしとこだわりが強く伝わってくる作品でした。

##### ラジオ部門委員長・五井千鶴子

最終選考に残った作品はどれも完成度が高く、制作者の思いの深さが伝わってきました。知恵と工夫と努力でラジオを一段と面白くしてくれました。大賞の J-WAVE SELECTION「GENERATION TO GENERATION～STORIES OF OKINAWA～」は、沖縄慰霊の日に放送された川平朝清と息子ジョン・カビラによる対話ドキュメンタリー。その手法が鮮やかでした。

##### CM部門委員長・服部千恵子

令和への改元や東京 2020 前年であること、ラグビーワールドカップ、消費増税などテーマが目白押しだった今期は力作ぞろいでした。大賞はカネボウ化粧品のシリーズ「I HOPE.」です。令和 2 年、企業と人々の夢をシンクロさせ、グローバル企業を目指すカネボウを美しく宣言しました。「美ではなく希望を語るブランドへ」。明日を語る作品がナンバーワンになりました。

##### 報道活動部門委員長・丹羽美之

新型コロナウイルスの影響で、当たり前前の日常が奪われている今だからこそ、日常にしっかり根を下ろした報道活動がいつにも増してかけがえのないものに思えました。そうした日常に根差した報道活動のなかでも、放送局と市民が 20 年に渡って力を合わせ、地域の宝である湖の再生を実現した中海テレビ放送「中海再生への歩み～市民と地域メディアはどう関わったのか～」を大賞に選出しました。

#### ◆受賞者コメント

##### テレビ部門個人賞

##### 伊藤沙莉

このたびは第 57 回ギャラクシー賞個人賞を受賞させていただき、本当にありがとうございます。たいへん嬉しく光栄に思っております。昔、先輩の素敵な役者さんに、「頑張っていれば、いつか誰かが見つけてくれるし、どこかで誰かが見てるから」という言葉をいただいたことがありました。その言葉を今、心から噛みしめております。と、同時に、また別の素敵な役者さんから、「頑張らなくていい、そのまま行けばいい」という言葉もいただきまして、その言葉も凄く大事にしています。これからもマイペースで頑張っていきたいと思っております。そして、何より、周りの支えてくださっている方々への感謝も忘れずに、これから、ますます、日々精進していけたらいいなと思っております。本当にありがとうございました。



### **ラジオ部門DJパーソナリティ賞**

#### **爆笑問題**

この度はギャラクシー賞 DJ パーソナリティ賞をいただきましてありがとうございます。まさかいただけるとは思っておりませんでしたので、たいへん嬉しいです。われわれもずっとラジオをやらせていただいて、現在も2つの番組を20年以上続けています。地方のラジオも聴きまくってます。今回の賞は全国のラジオファンの皆様のおかげでいただいた賞と思っていますので、ありがたく受け取りたいと思います。これからも頑張っていきますので、皆様、これからもよろしくお願いします。

### **志賀信夫賞**

#### **樋泉 実**

思いもかけなかった受賞でした。「放送批評懇談会」の創設者で、日本の放送文化を鍛え、支えてこられた志賀信夫さんを冠に頂く賞で、大変光栄に思います。加えて今回の受賞は「地域メディアへのエール」と受け止めています。

「放送批評懇談会」は放送人にとってとても大事な存在で、特に「ローカル局」や「小規模のメディア」への温かな視線があり、われわれにとっても「塾」のような場でした。ローカル局制作のドキュメンタリーが長く続いているのも、ギャラクシー賞の存在があったからこそと思います。

日本の社会もマスメディアとネットが混在した情報空間になってきましたが、生活者は以前にも増して、信頼できる情報、地域情報を強く求めていると感じています。コロナ禍の状況でも、改めて実感します。

「地域メディアにはまだまだやるべきこと、やれることがある」

志賀さんからのメッセージと受け止めています。ありがとうございました。



## ギャラクシー賞の概要

### ◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は年度単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

### ◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。他部門も定例会を持ち番組・作品を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

### ◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年5月下旬～6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

【テレビ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 10、特別賞 1、個人賞 1、フロンティア賞 1

【ラジオ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 4、個人賞またはDJパーソナリティ賞 1

【CM部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 9

【報道活動部門】大賞 1、優秀賞 2、選奨 3

【その他】志賀信夫賞 1、マイベストTV賞グランプリ 1

＜志賀信夫賞＞

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2010年（第47回）創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

＜マイベストTV賞＞

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2007年（第44回）創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」（視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員）が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」として表彰される。

上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

◆沿革◆

1963年度（表彰は1964年）ギャラクシー賞誕生、第1回。

1989年度 第27回、ラジオ部門独立。

1993年度 第31回、ラジオ部門にDJパーソナリティ賞新設。

1995年度 第33回、CM部門設立。

2002年度 第40回、報道活動部門設立。

2006年度 第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。

2009年度 第47回、「志賀信夫賞」を新設。

2015年度 第53回、テレビ部門にテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。